



● 楽知ん研究所のごとを より知っていただくための パンフレット ●

な～あに？

<http://www.luctin.org/>

らくちん
研究
所
since 1993 (NPO 法人化 2005)

第Ⅰ章 楽知ん研究所は、なにしてるの？

私たちは何をして、何を解決するのか？(ミッション)

■ 私たちは、
誰もが
たのしく感動的に
学ぶことができる
〈科学入門講座〉を
開催する NPO の研究所です。



■ その講座を通して、
予想をたてて実験しながら、
新しいことに〈チャレンジ〉する人
そのチャレンジを〈主体的に応援〉する人
〈他人の笑顔〉を広げていく人
たちが
たくさん育つ社会をつくっていきます。

私たち、「楽知ん研究所」と言います。

「たのしい科学入門講座」をとおして、
子どもから大人、おじいちゃん、おばあちゃんまで、
感動的に学ぶことのたのしさを広める

NPO の研究所です。

科学入門教育では、

まだ解かれていたかった問題を
解決していく〈典型的なプロセス〉を体験する
ことができます。

過去の人間たちが、いろいろ間違え失敗しながらも、
1つ1つ問題を解決してきた、その頭の使い方

を学ぶことができます。

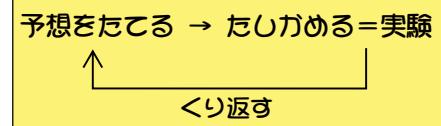
つまり、予想をたてて、他人と議論して、どれが正しいのか実験することをくり返して、仮説を検証していくという方法です。

1人1人が科学に入門することで、予想をたてて実験しながら
さまざまな新しいことに〈チャレンジする〉人たち、
そのチャレンジを〈主体的に応援する〉人たち、
〈他人の笑顔〉を広げていく人たち、
そういう人たちがもっともっと増えていく。
その結果として、より豊かでたのしい未来がつくられていく。

そんな未来をつくる人間を育てるお手伝いすること

それが、私たちのミッション (=何をして、何を解決するか) です。

講座の参加者や会員のみなさんといっしょにそのミッションを実現していきます。



● 楽知ん研究所ってな～に？ ●

● 楽知ん研究所ってな～に？ ●

第2章 楽知ん研究所の講座って、どんなの？

予想をたてて実験する

「予想をすれば、やってみたくなる。
やる前に話したくなる。他の人の考えも知りたくなる。
実験してみて予想が当たればうれしくなる。
予想がはずれれば本当のことがわかってかしこくなる。
そして、やっぱりたのしくなる」（板倉聖宣）

こんなを体験を、親子孫の幅広い世代でいっしょに味わっていた
だく〈科学入門講座〉を、私たちは 10 年以上前から開催しています。
今のところ、私たちが提供できる講座プログラムは、以下です。

■ 親子孫でたのしい仮説実験講座

90 分 × 4 コマの連続講座。1 つの
テーマを 4 コマを通して追求する本
格的な科学入門教育のプログラムで
す。1963 年に板倉聖宣氏によって
提唱された仮説実験授業の授業書を
使用します。家でも実験ができる実
験セット付の講座です。

2006 年からは全国規模で開催し
てます。2014 年は全国 24 会場で開
催し、全部で 275 家族、800 人ほどの方々にたのしんでいただきました。



●楽知ん研究所ってなあに？●

■ 〈大道仮説実験〉講座 —— 〈お手軽な科学入門講座〉

90 分の講座。「1 時間の大道仮説実験 + 20 分くらいの体験やものづくり
+ 10 分の紙芝居」という構成になっています。短いプログラムなので、本
格的とは言えませんが、それでも、予想をたて実験をするたのしさは味わ
えます。子どもから大人までたのしめます。



■ 〈ものの見方・考え方〉講座 —— 〈科学を支える発想法の講座〉

1 日、あるいは 1 泊 2 日のセミナー、あるいは 1 コマ 90 分の連続講座。
〈見れども見えず〉、〈皿まわし組織論〉、大道仮説実験、心得マッキーノなど
を組み合わせた、ものの見方・考え方や発想法を通して、自分の脳ミソでも
のを考える講座です。科学講座ではありませんが、科学のバックボーンと
なる発想法にかかるものです。

中学生・高校生くらいから大人まで。リーダー育成、社員研修などでも
好評です。仮説実験（仮説検証）はビジネスでも有効です。



●楽知ん研究所ってなあに？●

他の「科学講座」との違いは？

現在、よく行われている、子どもや市民向けの科学講座は、〈最先端の科学をわかりやすく解説する〉もの、〈まるで手品のようにあつと驚くような現象を見せて、なんだか不思議でたのしいけれど、そのしくみはよくわからない〉もの、さらには、〈ちょっとした工作やおもちゃづくりをすることが「科学実験」と安易に呼ばれている〉ものなどが、少なくないよう思います。

一方、私たちの科学講座はそれらとはまったく別物です。

それがどう別物かをお話するために、突然ですが、たのしい科学教育の源流を歴史的にたどってみます。少しだけおつきあいください。

300年ほど前の1700年代のヨーロッパやまだ植民地だったアメリカでは、一般市民相手に科学実験講座が開かれていました。当時の学校では科学実験の授業は行われていませんでした。まだ「サイエンス」という言葉もなく、「ナチュラル・フィロソフィー」（自然の哲学、自然のものの見方・考え方）と呼ばれていました。細々と分科した枝葉末節の「科」学ではなく、根源的な自然や社会の原理原則を学ぶものでした。それは〈新しいものの見方・考え方〉でもあり〈生活にも役立つもの〉であり〈たのしみごと（知的エンターテイメント）〉でもありました。

その講座では、数式なども使わずに、目の前で実験を見せることで、自然の法則や原理が誰にでも理解できるようになっていました。当時、女性の参加者も少なくありませんでした。参加者は受講料を支払って参加したわけですから、たのしくなければ講座は維持できないでしょう。



●楽知ん研究所ってなあに？●

その科学講座は、英國ロンドンで始まりました。そして、ロンドン郊外、英國各地、オランダ、スウェーデン、植民地のアメリカなどでも、模倣する人が現れて、同様な科学実験講座が開かれていきました。その中には、そこで得た知識から、新しい事業を起こし、当時の社会における問題を解決していった人たちも出現しています。残念ながら、1700年代の〈たのしい科学教育の流れ〉は、科学が産業と密接に結びついていく1800年代後半から途切れてしまいました。

その後、たのしい科学教育の伝統を引き継ぎ、現代的に復活させることに成功したのが、1963年に日本の板倉聖宣（いたくらきよのぶ）（仮説実験授業研究会代表、日本科学史学会会長、国立教育政策研究所名誉所員）さんによって提唱された「仮説実験授業」であると私たちは考えています。

今まで仮説実験授業は同年齢を相手にする小学校から高校の授業として主に行われてきました。小学校低学年から大人までの幅広い年齢層でいっしょに授業しても、それぞれが満足していただけることが、私たちの講座でも明らかになってきました。それを、もっと、社会に広げていきたいというのが、私たちがやりたいことです。



オランダ、アムステルダムでの〈たのしみごと〉としての科学実験講座（1795）

●楽知ん研究所ってなあに？●

第3章 楽知ん研究所の到達点（ビジョン）は？

持続可能な〈しくみ〉をつくりたい！

- 1700 年代のたのしい科学の伝統にたちかえる！
- みんなの脳ミソが喜ぶ
たのしい〈笑顔の流れ〉をつくりたい！
- その〈笑顔の流れ〉を 300 年後の未来にも
脈々と持続するしくみを、
となりとなりへと、つくっていく。

たのしい科学実験の源流は 1600 年代後半の英國のボイル (1627~1691) やフック (1635~1703) からはじまり、1700 年代のデザギュリエ (1683~1744) によって市民向けの実験講座に引き継がれていきました。その講座がグラーフェザンデ (1688~1742) によってオランダに広がり、フランクリン (1706~1790) によって、まだ植民地だったアメリカにも広がっていきました。

そして、その伝統は途絶えてしまつたかのように見えますが、しかし、300 年後の日本の私たちが、その伝統にたちかえった科学入門講座を新しい形でひきついでいます。

さらに 300 年後の未来にも、この流れが続くような橋渡しの仕事を、私たちはしたいのです。持続可能な〈しくみ〉をつくりていきます。そんな超長期的な視野も持ちながら活動していきます。

「いつも明るくたのしく生きて、新しい時代を切り開いた人」
ベンジャミン・フランクリン (1706~1790, 米国)



●楽知ん研究所ってなあに？●

第4章 どんな人たちが、どんな思いで活動しているの？

中心メンバーが共有する価値観

楽知ん研究所の中心メンバーは、小学校から大学の教師のほか、会社員、公務員、主婦（主夫）、学生など様々な人がいて、全国に散らばっています。

中心メンバーは、自由に発想する〈束縛〉として、以下のことを価値観として共有しながら、いろんな研究開発、普及に取り組んでいます。



① 成熟経済時代での「たのしい時間」を提供する〈楽知ん〉をつくる

- 成熟経済時代になり、〈たのしい時間〉をどうつくるかが求められるようになってきた。〈たのしい時間〉を提供する具体的なサービスは、より多様なものがつくられていいくだろう。
- 我々は、その中でも科学入門教育を中心に、みんなの脳ミソが喜び、たのしい笑顔が流れる〈楽知ん〉を、みなさんに提供できる研究をすることで、〈たのしい時間〉をつくるお手伝いをする。

② 1700 年代のたのしい科学と科学教育の伝統にたちかえる

- たのしい科学教育の源流は、1700 年代の欧米での科学実験講座や巡回講座にある。当時の一般市民は、街の中や郊外で開催されていたその講座に参加し、実験という新しいものの考え方・見方を学び、役立てていた。
- その講座は有料で、参加者はたのしんで参加したのである。その科学史の研究を通して、絶えず「たのしい科学と科学教育の伝統」の原点にたちかえる。

③ 先行研究成果の肩の上に乗り、そしてきちんと立つ

- 日本では板倉聖宣氏が 1963 年に提唱した科学入門教育である「仮説実験授業」の成果が蓄積され、たのしい科学教育が実現することが実験的に明らかになっている。

●楽知ん研究所ってなあに？●

- その成果の肩の上に我々は乗り、そしてきちんと立ち、成果を引き継ぎ、さらなる研究を進めていく。

④ 300年後にも誰かが肩に乗ってくれる仕事を

- 誰もが追試できる研究蓄積をするためには、先行研究を明らかにして、正当な評価や再発見ができる体制をつくる。
- 300年後にも、誰かの先行研究になれるような形として残すことで、人類文化に貢献する。

⑤ お客様中心主義。されど、新たな研究成果を常に提案し続ける

- 「たのしい時間」をつくれたかどうかは、すべてお客様の評価による。
- その結果をもとに、我々は大胆かつ繊細に、さらなる新しい研究成果をお客様に提案し、仮説実験していく。
- お客様が喜ぶ顔を見ることで、我々はたのしみ、満足する。そう、「衣食足りれば、他人の笑顔」である。



●楽知ん研究所ってなあに？●

第5章 「NPO(非営利民間)の研究所」ってなに？

成熟経済時代でのたのしい研究組織のあり方

1600年代や1700年代の英国で、たのしい科学的研究をすすめた王認学会（ロイヤル・ソサエティ）やルーナー・ソサエティ（月夜の会）などは、みな民間の非営利組織でした。まさにNPOです。その活動を楽しみ、支持する貴族やお金持ちが会員やパトロンとなって運営資金＝「志金」を出し合って維持されてきました。しかし、現在の日本には、貴族はいませんし、私たちの知りあいにも大金持ちはいません(^;)。

今まで、みんなからの税金を使って、私たちが選挙で選んだ政府の判断で、大学や研究所、学校がつくられ、サラリーマンとしての職業研究者や職業学校教師が雇われ、研究や教育が行われてきました。一方、これからの中経済時代には、たのしい科学の伝統にたちかえった、いわば産地直送版のお金の流れ＝「志金」をつくって運営を維持する民間の研究所や科学を教える場ができてきてもいいと私たちは考えます。そうなれば、もっともっと面白い社会になっていくに違いないと予想しています。

現在の日本の学校（私立も含む）や研究所などが、税金によって全部、あるいは一部が補助金（これも税金）によって維持されているのは、理由がないことではありません。教育や研究は「公のサービス」という側面が強く、そこからの利益だけで維持していくことが難しいけれども、社会にとって必要不可欠な事業だからです。

しかし、税金によって運営されることで、サービスの質がなかなか良くなっている面があるのは他の分野と同じです。教育や研究の場でも中経済社会では、より多様な、質の高いサービスの提供が求められるように益々なっていくでしょう。

●楽知ん研究所ってなあに？●



教育や研究の分野でも、これからは実験をくりかえして、いろんな試みをしていくほかはないでしょう。NPO 法人は、「非営利で民間」というしくみです。つまり、民間で、教育や研究などの公のサービスの活動をします。NPO 法人ならいろいろ思い切った実験が、すぐに、柔軟にれます（もちろん失敗もしますが、またすぐに新たな実験ができます）。

しかし、残念ながら、事業で大きなお金の流れをつくることは、楽知ん研究所の活動では無理です。だから、営利活動（株式会社）という選択肢をとらず、非営利民間（NPO 法人）を選択しています。

だがしかし、事業を維持発展させるにはお金が必要なことも間違いません。そこで NPO 法人には「会費」という制度があります。

楽知ん研究所の会員になりませんか？

「会費を払うと、何からもらえるの？」

よく聞かれるのですが、その答えは……「何ももらえない」(^^;)。

「会費」という言葉が誤解を招くのですが、NPO の会費制度は何かの物やサービスの対価ではありません。「会費」は、株式会社でいえば「出資」に当たります。株式会社では、出資に対して事業がうまくいけば出資者（株主）に金銭的なリターンがあります。

一方、NPO では、その「会費」によって事業が成功しても金銭的なリターンはありません（利益を出資者に還元しない事業を「非営利」といいます。利益は事業を維持発展するためにすべて使います）。そのかわり笑顔のリターンがあります。さらに、会費を出した人だけでなく、もっと多くの人に笑顔が広がり、100 年後、300 年後の顔も知らない、まだ生まれていない人たちの笑顔にもつながっていくかもしれません。

お金には、大きく分けると次の 2 つの使い方があります。



① 消費する（物やサービスに対する対価）

② 働いてもらう（投資、貸す、寄付、税金、そして NPO の会費）

「NPO 法人の会費」というのは②の「お金に働いてもらう」という使い方の 1 つです。自分で直接に働くなくても、自分のお金に働いてもらうわけです。これが「資金」ならぬ「志金」です。

1600 年代や 1700 年代のヨーロッパの貴族や大金持ちのように、パトロンとして、楽知ん研究所の事業を維持発展させる応援をしていただこうということなのです。現在では、貴族もいないので、みんなで少しづつ、その事業が必要だと思う人が応援して支えるというのが、NPO 法人の会員制度です。成熟経済社会ならではの、こんな「お金の働きかせ方」はいかがでしょうか？

楽知ん研究所の会員制度

NPO 法人楽知ん研究所では、以下の〈運営会員〉〈サポートー会員〉〈チサポーター会員〉の 3 種類の会員があります。会員の方には、それぞれ特典があります。

「特典めあてで会員になるなんて、さもししい」という方もいらっしゃるかもしれません、そういう意図ではまったくありません。私たちの活動に、積極的にかかわったり、応援したりしていただくために、より自由になるための〈束縛〉や〈キックケ〉としての特典ですので、大いにご利用ください。

◎運営会員（個人）〈月に一度、飲みに行く〉ほどの応援！

5000 円 / 月 (=6 万円 / 年)

- NPO 楽知ん研究所の「ミッション」や「ビジョン」、「中心メンバーが共有する価値観」に共感し、運営にかかわってくださる方。総会時に議決権があります。
- 運営会員は、以下のサポートー会員（個人）の特典がすべて受けられます。特典は今後、増えていきます。

● 楽知ん研究所ってなに？ ●

● 楽知ん研究所ってなに？ ●

◎サポーター会員（個人）

〈月に一度、外食する〉ほどの応援！

一口 1500 円 / 月 (=1万 8000 円 / 年)

- 楽知ん研究所のミッションやビジョンに共感し、支援し、活動を普及していただける方。一口以上。総会時に議決権はありません。
- 特典 1：親子孫でたのしい仮説実験講座の主催者・講師としての各種サポート（実験セット購入、企画運営サポート、情報共有など）が受けられます。
- 特典 2：大道仮説実験講師としての各種サポート（おみやげ実験グッズセット購入、情報共有など）が受けられます。
- 特典 3：科学読み物紙芝居の電子版を使用できます。
- 特典 4：100 億倍水分子バルーン、喜びの歌パンジーチャイムなどのレンタル料の割引。
- 特典 5：楽知ん商店街の商品の 1 割引き。
- 特典 6：会誌「楽知んブリーズ」無料購読。
- 特典 7：楽知ん研究所主催イベントの割引参加。
- 特典 8：楽知んカレンダー 6 冊プレゼント。



◎チサポーター会員（個人）

〈月に一度、カフェに行く〉ほどの応援！

500 円 / 月 (=6000 円 / 年)

- 楽知ん研究所のミッションやビジョンに共感し、生産物やイベントを継続的にたのしんでいただける方。総会時に議決権はありません。
- 特典 1：会誌「楽知んブリーズ」無料購読。
- 特典 2：楽知ん研究所主催イベント時にグッズプレゼント。
- 特典 3：楽知んカレンダー 2 冊プレゼント。

◎サポーター会員（法人、団体）

一口 10 万円 / 年

- 楽知ん研究所のミッションやビジョンに共感し、支援し、活動を普及していただける法人や団体。総会時に議決権はありません。
- 特典 1：100 億倍水分子バルーン、喜びの歌パンジーチャイムなどのレンタル料の割引。
- 特典 2：楽知ん商店街の商品の 1 割引き。
- 特典 3：法人で一口 3 人まで、楽知ん研究所主催イベントの割引参加。
- 特典 4：楽知んカレンダー 6 冊プレゼント。



会費ではなく、特典のない「寄付」も受け付けております。

サポーター会費、寄付の申し込みは、楽知ん研究所のウェップサイトで。毎月あるいは毎年の自動引き落としサービスも利用できます。

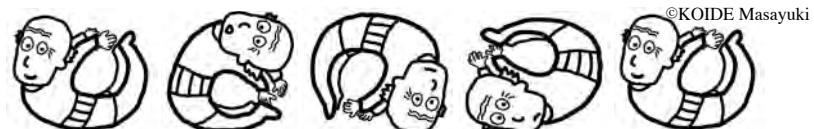
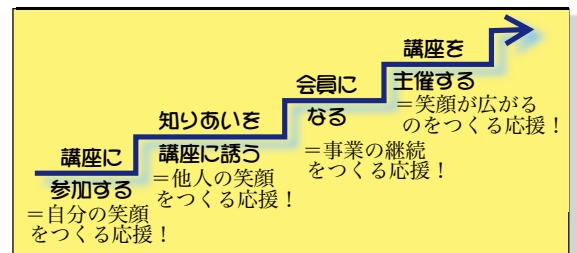
● 楽知ん研究所ってなあに？ ●

第6章 まづはどうやって応援したらいいの？

様々な応援の仕方、サポーターのあり方があります！

- なにはともあれ講座にご参加ください。一度、参加していたかないことには、そのたのしさはやっぱり伝えられません。ぜひ一度、脳ミソが喜ぶ体験を一人で、ご家族と、友人とどうぞ！
- すでに講座にはまってしまった方は、ファンとして何度も講座にご参加ください。参加するたびに予想をたてて実験するたのしさや議論するたのしさが次第に脳ミソにしみ込んでいます。
- 楽知ん研究所の熱烈なファンになってくださった方は、お知り合いを、この講座にお誘いください。もちろん、私たちは〈誘うに値する講座〉を今後もつくっていきます。
- 地域で講座を主催していただくこともできます。会場と参加者を確保していただければ、こちらから講師を派遣します。
- 「親子孫でたのしい仮説実験講座」や「大道仮説実験講座」の講師や主催者になることもできます。
- 会員となって、会費というお金にも働いてもらうこともできます。寄付というお金に働いてもらうこともできます。
- 以上の他にも新しい応援の仕方が生まれると、もっとたのしいことが始まるかもしれません。あなたも実験してみませんか。

講座の参加者や
会員のみなさんと
いっしょに、私たち
のミッションを
実現していきます。



● 楽知ん研究所ってなあに？ ●